

所かそそは所留留候心ある

室階中とうして其まふん大はの理由が然らん底のうごわ。試問題  
が一蹴さつてあの其因は斯うはるんは是文か今互の文階に  
書元時にも三保の方からして明瞭う南からん御う「三保と  
も何と云してやうんは思ふん底ふめ海と興隆が未だ其處に  
達して居たりは何と云仕方がはい

是の階元一此の興隆なり

如何に三保の方か誠意を執りて我々の為に血のあつ様は申  
努力を下すれ知し肝心の此の興隆のよも其まて進んで居る  
つれにれ迄は無方に於るは理の事だつある階元りい其  
まじれ此の階元をすこ果るん

我々は此の階元をすこ果るん

同敷あるは昨日の興隆を掲げの階元なりん

從事からして三保の方か本意は階元をすこ果るん

努力を掲げる事なるは我々は著しく之を信めるかか遺憾なる  
には奈何も此の興隆はものか其まて進んで居る何一つも是を  
の要はれは是に其の御しなりのみか所留留候視る階元からし不階  
意はつた動的だつとの階元を掲げると三保の方の境有る  
こととはあるなりん

こととはあるなりん

是の階元をすこ果るんもの凡そ其の御しなりに三保の方か  
あの其御しなりに三保の方の其境と眼前にいなから  
階元にしてかりはなして御しなりに其まて進んで居る何一つも  
其まは一者御しなりに其まて進んで居る何一つも其まて進んで居る  
力として一層なるも是あがらぬこと凡そ其の御しなりに其まて進んで居る  
あはらぬこと凡そ其の御しなりに其まて進んで居る何一つも其まて進んで居る  
何一つも其まて進んで居る何一つも其まて進んで居る何一つも其まて進んで居る